

8. 河道特性

沙流川は、日高山脈に源を發し、ほぼ南西方向に流下している。途中、芽室岳(1,754m)、ルベシベ山(1,740m)、チロロ岳(1,880m)、ピハイロ岳(1,917m)等に源を發するウエンザル川、ペンケヌシ川、パンケヌシ川、千呂露川等と合流し日高町の市街地に至る。さらに戸蔦別岳(1,960m)、幌尻岳(2,052m)に源を發する額平川等の支川と合流し、平取町本町の市街地を経て門別町富川にて太平洋に注いでおり、流域面積は 1,350km²、幹川流路延長は 104km の一級河川である。

1) 上流部(岩知志ダム上流)

上流部は、日高山脈が日高造山運動の時代に概成された標高 600m 以上の大起伏山地で、山腹斜面は急峻な満壮年期的な地形をしており、標高 1,600m 以上の山腹にはカール地形が發達している。これより下流は、標高 200 ~ 600m 程度の中小起伏山地で、河川沿いに砂礫台地が広がる。河床勾配は 1/130 ~ 1/50 程度と急勾配である。

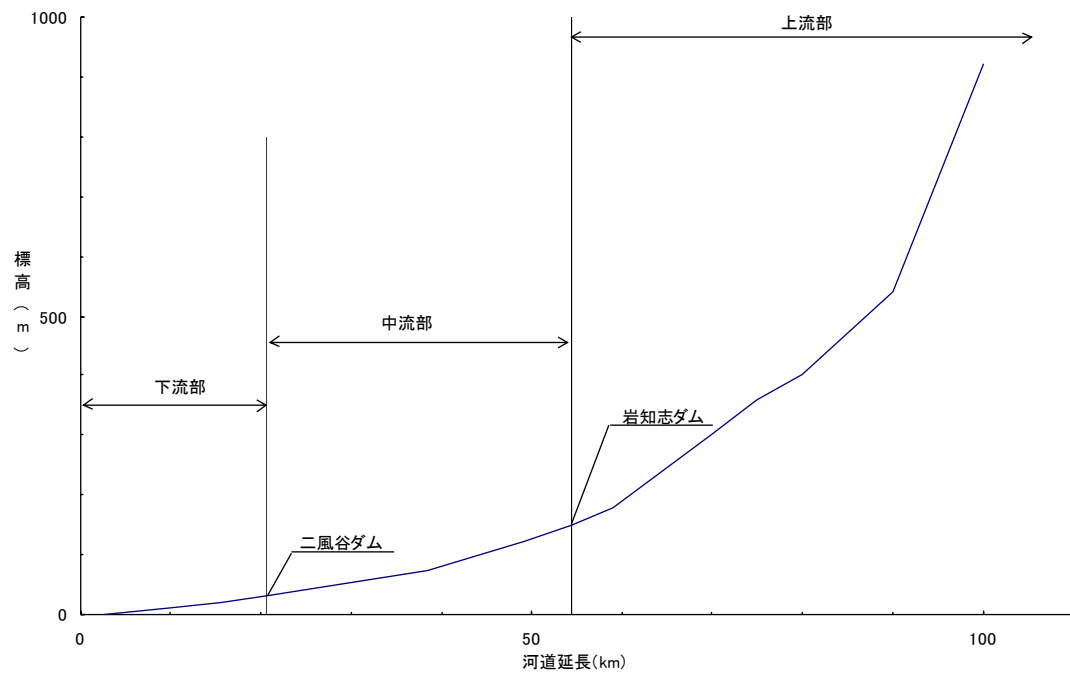
2) 中流部(岩知志ダム ~ 二風谷ダム)

中流部はおおよそ標高 200 ~ 400m の小起伏山地で、河岸段丘の發達が顕著な晩壮年期的地形を示している。河床勾配は 1/190 程度である。

3) 下流部(二風谷ダム下流)

下流部は、標高 100m 以下で、河岸段丘も見られ、平取本町から下流部には沖積平地の發達もみられるようになり、晩壮年期、老年期的地形を示す。河口までの勾配が 1/500 ~ 1/700 程度と急流で、ほぼ一定勾配の沖積地河川である。

河道形状は、高水敷の狭い複断面河道が多く、低水路は堤間内で大きく蛇行している。



河床勾配	1/700	1/190	1/130	1/50
------	-------	-------	-------	------

図 8-1 沙流川河床高縦断面図